

第2学年 家庭科 学習指導案

奈良教育大学附属中学校 教諭 中嶋 たや

1. 単元名 食生活からエシカル消費について考える

2. 単元の目標

- ・ (知識・技能) エシカル消費とは何かを理解する。
「レジ袋有料化から考える」の朝日新聞の記事の内容を理解する。
- ・ (思考・判断・表現) エシカル消費の視点で食品を選ぶことが出来る。
「レジ袋有料化」はプラスチックごみ減量に有効かどうかを自分の視点で検討する。
- ・ (主体的に学習に取り組む態度)
- ・ エシカル消費の視点で食品を選び購入することが出来る。
- ・ エシカル消費の考え方を身近な人に伝えようとする。
- ・ 「レジ袋有料化」に関することを自分の問題として考え、積極的に仲間と意見交流する。

3. 単元について

(1) 教材観

新学習指導要領では、「消費生活・環境」の領域で「(1)金銭の管理と購入」で「物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。」とある。これについては、中学生にとって身近な商品の購入の学習と関連させて学習するよう述べられている。1学期、教科書にある消費生活の基礎(「物資とサービス」「契約の成立」など)について学習した後、「エシカル消費」についての学習を行っている。

食生活の学習の一環として、事前レポートで「エシカル消費について」というテーマで、いくつかのキーワード(フェアトレード・オーガニック・持続可能な生活など)について調べ学習をさせた上で、エシカル消費とは何かについて共通理解をはかり、昼食の例としてのカレーの例の中から「エシカル消費」の視点で選択をさせた。仲間と話し合いを行うと、エシカルの視点だけでなく、食品の安全性などについての意見が出た。

課題「週末 買い物に行ってみよう!!」をもとにエシカル消費の視点で商品を購入できた場合・購入できなかった場合の原因について話し合いを行っている。本時では、夏休みの課題とした「『エシカル消費』企業の取り組みを調べてみようレポート」をもとに、自分が何を選択し購入するかが、企業への1票となることを確認させたい。また、そのためにも提示された商品の中から選択・購入するだけでなく、企業に自分の望む食品を求めるプロシューマーとしての力を付けることを目指したい。

今年度は、今までの学習の延長にある学習として、レジ袋有料化の問題について考えた。

「波と共に押し寄せ、海岸を埋め尽くすゴミの山。洋上はるかな無人島の浜にも打ち上げられる空のペットボトル。海流に乗って何千キロも流され、浮遊を続けるビニール袋、海底の泥の中に大量に堆積するマイクロプラスチック…今、海に大量に流入するプラスチックが、世界的な問題となっています。経済の成長や便利なライフスタイルへの移行と共に増加の一途をたどってきた、この海洋を汚染するプラスチックごみ。多くのプラスチック製品を生産、消費している日本も、無関係ではありません。国際的にも大きな責任を持つ国の一つとして、この『海洋プラスチック問題』の解決に向けて早急に対応していく必要があります。」(WWF ジャパン HP)

今、海洋プラスチックごみの問題は深刻性を増している。しかし、私たちの日常生活は大きく変

わることはなく、相変わらずプラスチックに頼る生活を続けている。まずは、このプラスチックの問題に目を向け、自分ごととして考えていくことが大切であると考え。この授業をそのきっかけとしたい。

(2) 生徒観 2年生は、家庭科で身近な生活の課題について考えることに対して積極的であり、しっかりと自分の考えを文章にまとめることはできる。エシカル消費の学習については、具体的な例を知り、企業へのインタビューにも積極的に取り組んだ。エシカル消費は大切なことであるのに、なぜ、大人達が知らないのかと憤り、自分が身近な大人達につたえていく必要性も感じている。

しかし、プラスチックの問題について、意識しているとは言いがたく、日常的にペットボトルの飲料を購入する生活を送っている。この授業を通して、プラスチックごみの問題を自分ごととしてとらえ、考えていく姿勢を身につけさせたいと考える。

(3) 指導観

エシカル消費の授業から続くレジ袋有料化についての授業では、プラスチックゴミの問題を自分ごととしてとらえて、今後の自分の生活を考えるきっかけとして考えている。資料となる新聞記事から学ぶだけでなく、今後も継続的にこの問題について、自分の生活と関連づけて考えていけるよう指導したい。

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

- 相互性：つながっている、循環している
- 有限性：もったいないの文化がある。物を大切に長く使う文化がある。
- 公平性：世代内と世代間を考えている

・本学習で育てたいESDの資質・能力・批判的に考える力（クリティカル・シンキング）

- 未来像を予測して計画を立てる力
- 多面的・総合的に考える力（システムズ・シンキング）
- コミュニケーションを行う力
- 他者と協力する態度
- 進んで参加する態度

・本学習で変容を促すESDの価値観

- 世代間の公正
- 自然環境、生態系の保全を重視する。（生物多様性の重視）

・達成が期待されるSDGs

- 目標 1：貧困をなくそう、
- 目標 12：つくる責任使う責任
- 目標 14：海の豊かさを守ろう
- 目標 15：陸の豊かさを守ろう

4. 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>○「エシカル消費」とそれに関わるキーワード(フェアトレード・オーガニック・地産地消など)を理解する。</p> <p>○「レジ袋有料化」の朝日新聞の記事の内容を理解している、</p>	<p>○「エシカル消費」の視点で食品選択の条件を考え、よりよいものを検討し、発表する。</p> <p>○「レジ袋有料化」はプラスチックごみ減量に有効かどうかを自分の視点で検討することができる。</p> <p>○今回の学習を通して、今後の消費行動について考えたことをまとめることができる。</p>	<p>○自分の消費行動について、現在の生活だけで無く、地球環境の持続可能性なども考えて決定しようとする。</p> <p>○「レジ袋有料化」に関することを自分の問題として考え、積極的に仲間と意見交流する。</p>

5. 単元の指導計画（全○時間）

次	主な学習活動	学習への支援（・）	評価（△） 備考（・）
第一次	中学生も消費者だ(消費生活についての基本事項を知る)	自身も消費者であることを認識させ、契約・販売方法を示す	
第二次	エシカル消費を考えた食生活(1)・・・あなたの一歩が世界を変える (エシカルの視点で昼食としてのカレーを選択する)	3つの配慮(環境への配慮・地域への配慮・人々への配慮)に分類出来ることを確認する。	
第三次	○エシカル消費を考えた食生活(2)・・・「週末買い物にいてみよう」を下に話し合う(1時間) ○エシカル消費を考えた食生活(3)・・・エシカル消費となる商品を購入しやすくするには(1時間)	3つの配慮のうち、どの視点で選んだのかを、理由と共に発表させ	
第四次	○小学生の「プラスチックごみの問題を解消するために紙を使っているけど、木の問題は考えなくていいの」についてこたえるために考えることを知る。 ○朝日新聞の「レジ袋有料化」に関する記事を読み、わかったことをまとめ	・今、プラスチックゴミのことが問題になっているが、お菓子のパッケージが紙になって、それが解消されても新たな問題が生まれることについて悩んでいる小学生に答えるため考えてほしいと伝える。 ・今、レジ袋のことで何が問題になり、どのような解決法が模索されて	・朝日新聞「レジ袋有料化1・2」 △ア1

	<p>る。</p> <p>○小学生の「プラスチックは減らすことが出来ても、紙に変えたら木が減ってしまいますことは問題じゃないの」と言う問いにどう答えるかを考える。</p> <p>○考えたことを仲間と交流する。小学生によりわかりやすく伝えるためには、どう伝えるのが良いかについても考える。</p> <p>○今日考えたことをきっかけにプラスチックごみの問題について、継続的に考えることを確認する</p>	<p>いるかを理解させるよう、助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生の子にわかりやすい言葉で伝えることを意識してまとめるよう指導する。 ・中学生の仲間ではなく、小学生であることを意識させる。 ・すぐに解決することの出来る問題でなく、多様な問題を含むものであるので、みんなで継続的に考えていくことが必要であることを確認する 	<p>△イ</p> <p>△ウ</p>
課題	<p>考えた事に対する小学生の返信に対して考えたことをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生のコメントから更に自分の考えをまとめるよう指示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生の返信を載せた教科通信
第五次	<p>「エシカル消費～レジ袋有料化について考える」までの一連の授業を通して考えたことを新聞に投書する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・企業へのインタビューや小学生のやりとりを元に今後の消費行動について考えたことをまとめさせる。 	<p>△イ</p>